

## ヤイロの娘の癒やし

マルコによる福音書五章35〜43節

イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。(36)

重い病気で死にかかっていた娘を癒やすために、主イエスは会堂長ヤイロに連れられて家へと向かっていましたが、その途中、娘が死んだとの連絡が入りました。長血の女性の癒やしに時間を取られ、間に合わなかったのです。もっと早く来てくれれば良かったのにとヤイロたちは思ったことでしょう。しかし、今となってはもう遅い、わざわざ来てくださる必要もなくなったというのです。私たちも、「もう駄目だ」「今となっては仕方がない」と嘆くことがあります。しかし、神さまでも間に合わない時というものがあるのでしょうか。「イエスはその話をそばで聞いて」という言葉は、口語訳では「聞き流し」と訳しています。私たちが決して聞き流すことが出来ない「死んだ」という知らせを、イエスは聞き流すことが出来たのです。神にとって、「もう遅すぎる」ということはないからです。